



学校運営・教育活動アンケートの「子どもにあった仕事をさせる」の結果が1学期に比べて下降していました。「冬休みはお手伝いをがんばるように」各学級で声かけをしています。

みんなの力で、よいことが広がった

2学期は、児童会執行部や委員会、そして学年の取り組みによってよいことが全校に広がりました。これまでお伝えしてきたように、「あいさつ」は、執行部だけでなく、独自に取り組む学級が現れました。あいさつ運動にも参加しました。そして、あいさつすることが当たり前になってきました。

「そうじ」は、保健委員会の『校舎クリーン大作戦』のおかげで、縦割り班の班長や高学年が手本を示してよい掃除の仕方が広がりました。

そして、「ボランティア」は、ボランティア委員会が募金活動を行い、みんなが協力しました。はまなす学級では、全校のみなさんのために、石拾い、落ち葉集めをしてくれました。

また、春から話してきた「自分達で考え行動する」姿もたくさん見られました。学級会を開いて自分達で話し合ったり、学習発表会の練習を自分達で行ったりしました。6年生が「校内でも陸上記録会をしたい」と声をあげ4・5年生に働きかけたのも2学期でした。

こうして、子ども達みんなの力で、よいことが学校中に広がりました。みんなが2学期の成功を喜び、3学期につなげていきます。

1年生のあみさんが、張り切ってそうじをしていて、便器裏もごしごし磨いていました。

2年生のこはるちゃんの掃き方が上手になりました。

班長や担当の先生がよいところを見つけました

3年生のわかさんが、黙々とそうじをしていてりっぱでした。

4年生のなつきさんが丁寧に教えてあげていました。

「一人でやる強さ」と「一人になる強さ」

前号で、「一人でやる強さ」ということを書きました。人前で話したりするとき、緊張をほぐすためや照れ隠しのために、一人でやれるのについつい近くの友達に「ねえねえ、何話すんだっけ？」とか「〇〇って言えばいいんだよね。」などと話しかけてしまうということでした。

関連して考えました。「一人でやる」には大げさに言うと「一人でいることを耐えてがまん」できなければならないのではないかと思います。例えば、勉強時間。教え合って勉強することが必要な一方で、わからないからと言って「ねえねえ」とすぐに話しかけるのではなく、まずは一人でじっくりと考えることも必要です。スポーツも。例えば、陸上大会でスタート地点にたったとき、不安でもそわそわせずじっとスタートを待たなければなりません。「一人でいても、または、一人になっても、おろおろしない」という「強さ」が必要になってきます。世の中では、このような「一人になる強さ」をもった人を『大人っぽくなった』とも言うのではないのでしょうか。子ども達にも徐々につけていきたいことです。

「つながり」をよいものに

次にあげる「つながり」をどう思われるでしょうか。

○困っている友達がいる。「どうしたの？」と声をかける。

→これは、当たり前で必要な「つながり」だと思います。

○「今晚、ネットゲームを一緒にやろう。仲良しなもの。」

→これは、どうでしょう。たとえ楽しくて遊んでいても、よい「つながり」でしょうか。もしも、『ぼくはやらないよ』と言って仲が悪くなるようなら、この「つながり」はどうでしょう。

「一人になる強さ」と「人とつながること」の両方が必要なのは言うまでもありませんが、その「つながり」をよいつながりにしていきたいです。

子ども達には、この先、よいつながりをつくってほしいと願います。将来、「いざとなったら、最後までシタバタと心配してくれる」ようなつながりができたらいいです。そういう「友達」をつくってほしいです。

地域に見守られて

Let's「鶏舞」 ～3年生～

12月7日（火）、3年生が「総合的な学習の時間」に郷土に伝わる伝統芸能について学習しようと「瀧澤鶏舞」の保存会の方々にお願ひし、「瀧澤鶏舞」の成り立ちや実際の踊りを教えていただきました。

1850年代（安政年間）から伝わっていると言われる「瀧澤鶏舞」です。代表の子が衣装も着せていただき、踊りも教えていただき、見様見真似でもすぐに覚えることができました（まだ、人前で踊るには早いかもしれませんが…）。



つきたてのおもちを食べよう ～支援する会～

「支援する会」の「つきたてのおもちを食べよう」が12月11日（土）に行われました。ふかしたばかりのもち米を食べさせていただいたり、もちつき体験やもちを伸ばして切るところも手伝わせていただいたりしました。家庭科室では、雑煮の準備で野菜を切ったり食器を洗ったりもしました。

「支援する会」の活動で“さすが”と思うのは、子どもが「やる」場面をつくっていただけたところです。「料理してもらったのを食べる」ではなく、“自分で”切ってみます。支援する会の方々がそばで教えて見守ってくださいます。

コロナ禍もあってか、子ども達に「やってあげる」取り組みが多い中、実は子ども達はいろいろなことを「やってみたい」と思っています。ですから、「やる」とか「やらせる」ということは大切にしたい取り組みだと考えます。

つきたてのもちから、正月に職員室に飾る「お供え餅（かがみ餅）」を、子ども達につくってもらいました。



除夜の鐘がなって新年になったら きっと、ますます

大晦日には、除夜の鐘がなります。誰しもがもっている「弱い気持ち」や「迷い」を、鐘をつくのと同時に払うのだと言われてます。

たくさんのがんばりがあった二学期が終わりますが、子ども達は、自分のことをどのように振り返ったことでしょう。

「がんばったけれど、まだがんばることができた。」という子がいるかもしれません。「2学期はあいさつはがんばったけれど、掃除はもう少しだった。」とか。

人は「**ますますよくなりたい!**」と思うものです。それが、次の頑張りにつながります。どの人もがんばっていたことを、先生方も友達も知っています。それでも、「自分としては、まだ。」とか「めざしたいのはもう少し先。」というところが見つかったら、それが、新しい年の目標になります。そうやって、自分がなりたい「**よりよい自分**」を目指します。

除夜の鐘が「自分の弱い気持ち」や「失敗したこと」までも払ってくれるでしょう。そして、**新しい年を迎えたら、きっと、また、ますます、がんばることができようになっています。**

新しい年の頑張り期待を膨らませ、新年・三学期の始業式の子供達を待ちたいと思います。

地域に見守られ、おうちの方のご理解をいただき、この1年を終えることができます。大変ありがとうございました。どうぞ、よいお年をお迎えください。そして、来る新年もどうか、よろしくお願ひいたします。

3学期始業式は
1月17日（月）